【樹木の部屋】

シマトネリコ(モクセイ科トネリコ属　Fraxinus griffithii)

和名：シマトネリコ(島トネリコ)　別名：タイワンシオジ

英名：Griffith’s ash

ゴマノハグサ目　常緑高木　　原産地：台湾、中国 、フィリッピン、沖縄

花言葉：威厳、偉大、服従、思慮分別、高潔、荘厳　　花色：白

← 写真-１　シマトネリコの株立ち仕立て
撮影日：2021 年 4 月 27 日
撮影場所：奈良市市郊外にて
撮影者：M　さん

←↗ 写真-２、３　シマトネリコの小枝
撮影日：2021 年 3 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

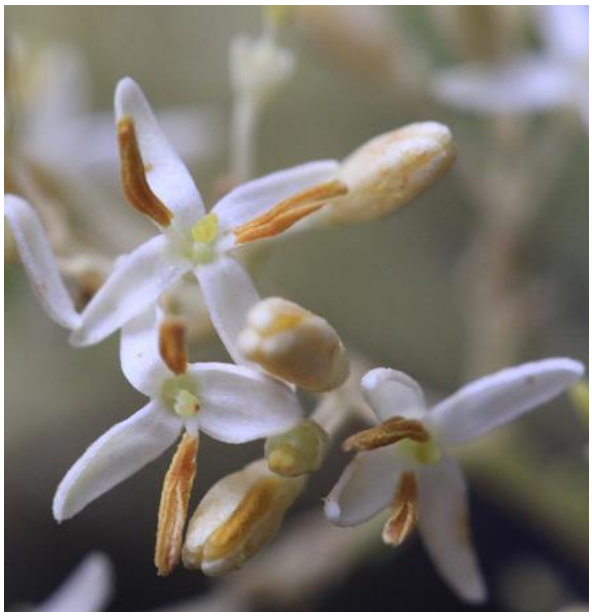
→ 写真-４　シマトネリコの小葉(表)
撮影日：2021 年 6 月 29 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

→ 写真-５　シマトネリコの小葉(裏)
撮影日：2021 年 6 月 29 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

←↓ 写真-６、７　シマトネリコの蕾
撮影日：2021 年 6 月 22 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-８　シマトネリコの花序
撮影日：2021 年 6 月 29 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

→　写真-９　シマトネリコの花
撮影日：2021 年 6 月 29 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん



シマトネリコは、トネリコ属では数少ない常緑樹で、庭木のシンボルツリーや鉢植えで室内インテリアとしても栽培が楽しめる人気の観葉植物です。小さな葉が密に生えるので見栄えがすることや洋風、和風の庭どちらにも合うのも人気の理由だそうです。緑色のトーンも明るめなので、植栽すると明るい雰囲気になります。沖縄などの暖地が原産なので寒さにはやや弱いものの、暑さに強く丈夫な樹木で、刈り込みに強い樹です。

葉は奇数葉状複葉で対生します。小葉は光沢のある皮質で葉の表面は濃緑色、裏面は緑色です。長楕円形で葉先は鋭尖頭から鈍頭、基部はくさび形で柄があり全縁です。葉柄と小葉柄の表面に浅い溝があり、それぞれ付け根が紫色になります。枝先の頂芽は小さな扁平でこげ茶色をしています。

花期は 5～6 月頃で、大きな花序に小さい花を多数つけ、開花後は結実して白色の翼(よく)をもった種子が見られます。種子は樹上に長くついているので、遠目に見ると花が咲き続けているようにも見えます。

丈夫で育てやすい反面、生長が早く、放置すると、植え付け数年で 2 階の高さくらいまでに生長します。植え付け後は、早い時期から定期的に剪定が必要です。が、花を楽しみたい場合は、花期直前の剪定は避ける必要があります。

街路樹に利用される場合は、幹が 1 本で見通しのよい単幹仕立てがほとんどですが、庭木としては、細い幹が数本立ち並ぶ株立ち仕立てのほうが、柔らかで自然な感じで人気があります。ただし、株立ちが大きくなると、幹の数が多いぶん幅をとることになります。そのため、スペースには余裕をもって育てるか、定期的に剪定してサイズ調整する必要があります。

株立ちは、一本一本の幹が細めで生長が比較的緩やかなのが特徴で全体の枝葉が多いので存在感があります。雑木のような自然な雰囲気があり、庭のシンボルツリーとして人気の樹形です。

「シマトネリコ」の「トネリコ」は、「戸に塗る木」が語源だそうです。昔はトネリコの樹皮につくイボタロウムシの分泌する蝋物質を敷居などの溝に塗って、戸のすべりを良くしたことから、こう名づけられそうで、「しま」は、沖縄などの南西諸島に分布していることから「島」が付いたといわれているそうです。

シマトネリコの剪定の基本は、枝の付根から切り落とすことです。古い枝を切り取って新しい枝に高さをそろえるようにします。株立ちする植物は剪定でその形を整えてあげる必要があり、シマトネリコは 12 月の間に株立ちを整えます。

株立ちを整える方法

1. シマトネリコを真上から見下ろしたとき、中心となる１本の大きな幹の周りを囲うように複数の幹が位置するように剪定する。
2. 「幹の土際付近の枝」や「大きな幹の内側へ向かって伸びている枝」など不要な枝を適度に剪定する。